

『規則』

最 近、幾つかの民間団体が校則見直しの指針を作成しているという記事を、教育関係の新聞で読みました。当然、制服や容儀のことは、その見直しの中で言及されることでしょう。

昭 和30年代後半から40年代前半に掛けて、私は中学・高校時代を過ごしました。当時の校則の詳細は記憶していませんが、男子生徒は、丸刈りに学生服というのが社会一般の通念で、私も、私の両親も何の疑問も持ちませんでした。小さな頃は髪を伸ばしていた私も、小学校を卒業し中学校に入学する間の春休みに床屋に行き、嫌々ながら、おかつぱのように伸ばしていた髪を切り、潔く坊主頭になりました。その時、自分はもう小学生ではないんだという思いが、胸に湧いた記憶があります。また、初めて学生服に身を包み中学校に行った時の、幼いながらの気恥ずかしさと誇らしさも、古希の老翁になった私の胸に蘇ります。その当時の私は、正に今の自分の来し方なのですが、別個の人間のようにも感じます。自分の若かりし頃の写真を見て懐かしく思うと同時に、今現在の街や電車の中で見る若者の様で、自分でありながら自分ではないような複雑な気分です。中学・高校生の頃の自分は、丸坊主や学生服の着用にとのような意味があり、何故そうしなければならぬのかということ、深く考えることもなく、坊主頭と学生服着用は柔順に従っていました。そんな規則は良いことなのかとか悪いことなのか、子どもの人権を侵すものなのか等と議論するつもりはありません。ただ、この歳になって思うのは、坊主頭で過ごした中学・高校時代、自分の個性が全く消されてしまっていたかという点、それは違っていて、私は私なりに当時から充分に個性的に過ごしていたと思っ

ています。学生服を着せられていたというイメージもありますが、今となっては懐かしく、学生服が着られて良かったとさえ思うのです。社会人になってブレザーや背広は着用しますが、流石に学生服は着られません。これは、個人の感想で人様に押しつけるものでもありません。大学の入学式の時、私は当然のように真新しい学生服で出席しました。しかし、学生服姿の新生入生は数割程度だったように思います。私も、入学式以後、学生服を着て大学に通うことはありませんでした。私服で大学キャンパスに通い始めた当初は、一種の呪縛から解き放された開放感のようなものさえ感じたように記憶しています。高校の卒業式の為に丸刈りにした髪も、大学に入学してから徐々に伸び、すっかり長髪になった時、自分の髪は癖毛だったんだと初めて認識しました。父と同じように前髪に強いウェーブがあったのです。そして髪に霜の降るこの歳になっても癖毛だけは健在です。

現 在の生徒達にも制服はありませんが、東京では学生服を見掛けることが、ほとんどなくなりました。学校サイドでも、制服としてブレザーを取り入れているところが多いようですし、洒落にもなっています。また制服がない学校もあります。髪型についての規則はあるでしょうが、坊主頭一辺倒の昔の規則に比べれば大分寛容になっています。

様 々な立場の人達が議論し合い、校則を見直すことは悪いことではありません。しかし、決して忘れてはならないこととあります。それは、校則は飽くまでも、教育のためにあることとです。そして、もつと大切なことは、規則の有無に拘わらず、自分で判断しながら自己を律する力を身につけることではないかと思うのです。

前号に誤りがありました。 誤 1996年6月にビートルズが来日すると 正 1966年6月にビートルズが来日すると